

ラオス人民民主共和国

2017年 サバナケット県タパントン郡・パランサイ郡での 支援活動報告



魚の養殖を手伝うロイルちゃん(右)とラちゃん(左)

チャイルドストーリー

家族の暮らしを救った魚の養殖

ロイルちゃん(中学校2年生)とラちゃん(小学校5年生)の両親は、以前は家族で食べる分の米だけを栽培していました。そのため、毎年収穫前の時期には食料が底をつき、学校で必要なものを買うお金も足りませんでした。仕方なく学校を休み、農作業の手伝いをすることもありました。

そのような中、この地域でワールド・ビジョン(以下、WV)の活動が始まり、ロイルちゃんとラちゃんの両親は水田を池にして魚の養殖を始めるための支援を受けました。養殖のための池の準備や、家畜の糞を原料に魚のえさを作る方法を学び、養殖に必要な道具の提供も受けました。この結果、養殖した魚を売って年間約62ドルの収入を得られるようになりました。また、米作りのために有機肥料を使うなどの新しい技術も学び、収穫量が増えました。「支援のおかげで、今では食料が十分ありますし、制服や学用品など、子どもたちに必要なものを買えるようになりま

した」と、母親のノイさんは話します。

ロイルちゃんとラちゃんも、WVの子ども向けの集会で、読み書きや栄養ある食事の大切さ、人身取引の危険性など、生きていく上で必要な知識を学んでいます。日々生きていくだけで精一杯だったロイルちゃんとラちゃんの家族に、支援によって未来への希望がもたらされています。



魚の養殖技術についての研修を受ける家族

教育プロジェクト

より多くの保護者が子どもが学校に行くよう 奨励する環境づくりを目指しています

これまでの活動により、2016年度は支援地域の96%の男子生徒と、95%の女子生徒が小学校教育を修了することができました。子どもの就学率をさらに引き上げるため、WVは保護者を含む地域住民に対して子どもの権利についての研修会を行い、子どもにとっての教育の重要性について理解を促す活動を行いました。研修会では、保護者は子どもの4つの権利（「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」）について学びます。例えば「育つ権利」の中には、「教育を受け、休んだり遊んだりできる権利」や、「考えや信じることの自由が守られ、自分らしく育つことができる権利」などがあり、保護者はその権利を尊重しなければならないことも学びます。対象の6村でこのような研修会を開催した結果、68人の参加者が子どもの権利について理解していると回答しました。活動が始まる前の基礎調査では、子どもの権利について説明できる保護者は0人だったことから比較すると、大きな前進です。



地域の人々が建ててくれた竹製の読書スペースで本を読む小学生たち



教育の重要性についての地域住民の理解が**向上**



自分たちの権利について学ぶ子どもたち

生計向上

年間を通じて安定して食料を確保できるよう支援しています



米を栽培する農家に、収穫量を増やすための農業技術の研修や種子を提供

2016年度は、前年度に行われた現地での調査で、特に貧しい世帯と認定された118世帯のうち91世帯に豚やヤギなどの家畜を提供し、基本的な家畜の飼育法に関する技術研修を行いました。また、合計320世帯に農業の新しい技術や知識についての研修を行い、作物の種の提供も行いました。これらの研修の結果、参加者の65%が農作業に関する技術と知識が向上したと感じており、また毎日の仕事に活用していると述べています。

対象の村で2016年度に年間を通じて安定して食料を確保できた世帯は、前年より10世帯増えたものの、まだ54.8%の世帯は安定して食料を確保できていません。各世帯が学んだ農業や家畜飼育の技術を向上させ、それが農産物の収穫率や収入に結び付くにはまだ時間がかかりますが、今後も地道に活動を続けることで、より多くの人々が年間を通じて安定して食料を確保することができるよう、支援していきます。

\$ 特に貧しい91世帯の経済活動を支援



収入向上のために池で魚の養殖を始めた住民。この池で1,000匹の魚を飼っている



支援地域の父親のストーリー

ヴェオさんは、地域の「ヤギ飼育グループ」のメンバーです。「ヤギ飼育グループ」では、WVから提供されるヤギを育て、子ヤギが産まれたらほかのメンバーに種ヤギとして分けていきます。メンバー全員にヤギが行き渡ったら、それぞれの家庭で増えたヤギを販売し、収入につなげています。

ヴェオさんは6年前にWVの支援でヤギ飼育の技術を学んだ後、4匹のヤギの提供を受けました。グループで大切に育てた結果、ヤギは順調に増え、メンバーに分けることができました。今年はヴェオさんの家庭で9匹の子ヤギが産まれました。「産まれた子ヤギ

が育ったら、売って子どもたちの学用品代に充てたり、家族の病気に備えることができます」と話すヴェオさん。ヤギ飼育によって、グループのメンバーに収入向上の道が開かれています。



産まれた子ヤギを抱くヴェオさん(右)と娘たち

現地責任者からのご挨拶

ラオスでは昨年政府の方針により、チャイルド・スポンサーシップ・プログラムが実施できなくなりました。この大きな変化にも関わらず、続けてラオスの子どもたちをご支援くださり、本当にありがとうございます。ごぞいます。

私たちが活動を行っているタパントン郡と隣のパラサイ郡では、ご支援により多くの子どもたちや人々の生活に変革がもたらされています。農業研修や家畜飼育により、収穫と収入が増え、家族が子どもたちを養う力をつけてきています。また、小学校の改修によって子どもたちの学習環境を整え、将来社会で必要となる様々なスキルや自信を身につけられるよう支援することができました。

しかし、地域にはまだ支援が必要な貧しい家庭や、親

の経済的理由や教育への理解不足により小学校以降の教育が受けられない子どもたちがいます。今後とも必要を抱えている子どもたちのため、引き続きのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後にもう一度、ラオス語で「コプチャイ」(ありがとう)。皆さまの温かいご支援に心より感謝申し上げます。



タパントン郡の事業責任者 ソムサヌック・シサマド

2016年度 (2015年10月1日～2016年9月30日)

ラオス サバナケット県タパントン郡・パラサイ郡での活動への支援額：65,199,836円

温かいご支援に心より感謝申し上げます。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 (平日 9:30～17:00)

FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp

e-mail：dservice@worldvision.or.jp